

感染症学 I

Infectious Disease I

単位数：5 単位

○吉山裕規 教授：微生物学
原田 守 教授：免疫学
佐野千晶 教授：地域医療支援学
鞆嶋有紀 准教授：小児科学
磯部 威 教授：呼吸器・臨床腫瘍学
和田孝一郎 教授：薬理学
飯笹 久 准教授：微生物学

1. 科目の教育方針

易感染性宿主の増加や薬剤耐性病原微生物の増加に伴い、感染症の劇症化や難治化が進行している。感染症を種々の病原微生物の病原因子と宿主側の防御バリアーとの攻防という視点で捉える。感染症に対する宿主の生体反応と感染抵抗性を統合的に考え、理解することを主な履修目標とする。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 病原微生物とヒトの宿主・寄生体相互関係を感染免疫学・分子生物学的に理解する。
- 2) 感染症の予防・診断・治療に関連した最新の知見を生体防御論から理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 主な病原微生物の病原因子の作用メカニズムと病原因子に対する生体反応について説明出来る。
- 2) 主な病原微生物に対する宿主感染抵抗性の発現メカニズムについて説明出来る。
- 3) 感染症の診察、検査法、予防の基本原則について説明出来る。
- 4) 感染症治療薬の概要と臓器別の治療指針について説明出来る。
- 5) 局所感染症の特異性と生体防御メカニズムについて説明出来る。

3. 教育の方法、進め方

講義、学生によるプレゼンテーション、討論によって進める。講義は主として面接授業で行うが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、オンライン授業に変更する場合もある。オンライン授業の場合は、Teams 等によるライブ配信を中心にオンデマンドを併用する。講義方法に変更がある場合には都度、連絡を行う。

4. 成績評価の方法

すべての講義と演習が終わった後、規定の出席率 (2/3 以上) を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) ブラック微生物学3版 神谷 茂, 高橋秀実, 林 英生, 俣野哲朗 監訳 (丸善出版)
- 2) 病原微生物学 荒川宜親, 神谷 茂, 柳 雄介 編 (東京化学同人)
- 3) レジデントのための感染症診療マニュアル4版 青木真 編 (医学書院)
- 4) 呼吸器感染症 (呼吸器疾患 診断治療アプローチ) 藤田次郎, 三嶋理晃 編 (中山書店)

6. 教育内容

回	授業内容	担 当
1	人類の感染症との戦いの歴史	吉山裕規
2	病原因子 1. 細菌の病原因子の生体への作用メカニズム	佐野千晶
3	病原因子 2. ウイルスの病原因子の生体への作用メカニズム	吉山裕規
4	細胞内寄生菌による感染症の成立メカニズム	佐野千晶
5	感染症と免疫 (自然免疫と獲得免疫)	原田 守
6	耳・鼻腔・上気道の免疫機構	佐野千晶
7	小児感染症の臨床	鞆嶋有紀
8	感染症治療薬	和田孝一郎
9	消化器感染症	和田孝一郎
10	呼吸器感染症	礪部 威
11	抗酸菌症の臨床的話題	礪部 威
12	演習 細菌・ウイルスの病原性検査法	飯笹 久
13	演習 抗菌薬の適正使用について	礪部 威
14	演習 予防接種について	鞆嶋有紀
15	演習 上気道感染症診療の理論と実践	佐野千晶